

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立大国小学校

令和 7 年 4 月

大阪市長 (大田小学校) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「大阪市教育振興基本計画」において、「最重要目標」として、

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

が掲げられている。この最重要目標に即する現状と課題は下記の通りである。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、安全安心な教育の実現に努めている。登下校では、教員が定期的に通学路等の安全確保に努めたり、地域の方々が下校時の見守り活動をしていただいたり、PTAの方が登下校の子どもの見守り活動をしていただいたりしている。また、月に 1 回、校内の安全点検を行い、学校施設の安全整備に努めている。さらに、教職員全員で児童理解を行い、子ども 1 人ひとりに応じた支援に努めている。令和 3 年度末の保護者アンケート「お子さまは、楽しく学校に行っている」に対して肯定的な回答は 96%、「学校は、子どもの安全確保について、積極的に取り組んでいる」に対して肯定的な回答は 96%であった。今年度も 90%以上を維持していきたい。また、令和 3 年度末の児童アンケート「学校はたのしい」に対して肯定的な回答は 93%であった。

今後とも、集団育成に取り組みながら、一人ひとりの子どもに寄り添った教育活動を進めていく必要がある。また、個々の家庭との連携を深め、子どもの生活実態の正確な把握に努めていく。問題等が把握されれば、関係諸機関（こども相談センター、浪速警察署、浪速区子育て支援室、こどもサポートネット、民生委員協議会）等と連携しながら改善に努める必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和 3 年度の学力経年調査の結果においては、標準化得点が 3 年 100.2、4 年 95.7、5 年 93.7、6 年 98.4 であった。

子どもたちの中には、指導者の指示を待つなど、主体的に学習できず、受け身的な傾向がみられる。児童が「学びたい」と思えるように導入を工夫し、互いの考えを交流する対話的な学びを大切にしながら、まとめのときも「なぜ」の疑問を大切にすることにより、主体的、対話的で深い学びを推進していく必要がある。

また、社会的な事象を直接見たり、聞いたり、触れたり、また人と出会い話をしたりすることを通して、自分の生活との関連などを具体的に考えたり、行動したりすることができるように体験的な学習活動も取り入れていく必要がある。

さらに、令和4年1月の児童アンケートで「本を読むのが好き」と答える児童は79%であった。読書をすることにより、読み取る力が向上すると考えるので、今後も本を読むことの面白さに気付けるような取り組みを進めるとともに、学校や家庭で読書時間を増やす啓発活動をしていく必要がある。

体力については、令和3年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、本校男子では、握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市男子平均を上回った一方で、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。本校女子では、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市女子平均を上回った一方で、握力、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。特に、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では、男女ともに大阪市平均を下回った。今後はより一層、柔軟体操に取り組んだり、持久力や走力向上のための取り組みを進めたりしていく必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

本校では、令和2年度から Pepper を導入し、Pepper をはじめ Scratch や Viscuit など、児童の実態に応じたソフトを活用しながらプログラミング教育を進めている。また、一人一台学習者用端末を活用し、生活科や総合的な学習の時間において、タイピングの学習も進めている。タイピングの学習をする際は、キーに応じた指でタイピングができるように、タイピング入力表を1人に1枚用意している。さらに、一人一台学習者用端末や大型テレビを活用して、自分の考えをパソコン上でまとめたり、発表資料を作成したり、まとめた資料を友だちや学級全員で共有したり、大型テレビを活用して発表したりする取り組みを進めている。

上記のような取り組みを進められるように、一人一台学習者用端末の整備、Wi-Fi 環境の整備、ケーブル関係の整備などにも取り組んでいる。

校内研修会では、外部講師を招聘して研究授業を実施したり、一人一授業を実施してすべての教員が研究授業を実施したりしている。研究授業の際には、管理職をはじめ他の教員が授業を見て、より良い授業になるように意見を交換したり、互いの授業を見合うことにより授業力向上に繋がったりできるようにしている。また、放課後や長期休み中には校内研修会を実施し、教員一人ひとりが学ぶ機会を持ち、指導力向上も図っている。さらに、指導に関する書籍を充実させ、指導に当たって教員が学びやすい環境整備にも努めている。

超過勤務時間が月45時間を超える教職員の割合は、令和3年度では約10%であった。今後は、子どもがいろいろな手段を使って学びに向かっていくことができるように、学びを支える教育環境の充実をより一層図っていく必要がある。また、働き方改革を進め、超過勤務が月45時間を超える教職員の割合を減少させていく必要がある。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94.1%以上にする。(令和6年度94%)
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81.1%以上にする。(令和6年度81%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を79.1%以上にする。(令和6年度79%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(令和6年度 1月時点 23.6%)
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を100%以上にする。(令和6年度100%)

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立大国小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94.1%以上にする。(令和6年度94%) ○ 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81.1%以上にする。(令和6年度81%) | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・不登校への対応。 | |
| 指標 ○ いじめに発展する前の段階での早期発見、早期解消を図るために、児童アンケートを学期に1回実施し、実態の把握に努める。 ○ いじめと認知した場合、事案のすべての解決に取り組む。人権教育会議を月1回程度実施し、情報と手立て、今後の方向性を全教職員で共有する。 | |
| 取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 インクルーシブ教育の推進 | |
| 指標 ○ 令和7年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合を、85.1%以上にする。(令和6年度85%) ○ 令和7年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていないようにしている」と肯定的に回答する児童の割合を、95.1%以上にする。(令和6年度95%) | |
| 取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳教育の推進 | |
| 指標 ○ 「褒めて、認めて、励ます」を実践しながら、児童の自尊心や自己肯定感向上に取り組む。 ○ 「かわ」等体験的な学習に系統的に取り組む。 ○ 令和7年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合を、87.1%以上にする。(令和6年度87%) | |
| 取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 人権を尊重する教育の推進 | |

| | |
|---|--|
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 性・生教育の年間カリキュラムを作成し、全学年で系統立てて取り組む。 ○ 令和7年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合を、92.1%以上にする。(令和6年度 92%) | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の結果と分析</p> | |
| | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| | |

(様式 2)

大阪市立大田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成 状況 |
|--|----------|
| 【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。 ○ 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 79.1%以上にする。(令和 6 年度 79%) | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗 状況 |
|---|----------|
| 取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的、対話的で深い学び」の推進 ----- 指標 ○ 国語科・算数科の学習を通して基礎基本の学習の定着を図る。 ○ 令和 7 年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合を 94.1%以上にする。(令和 6 年度 94%) | |
| 取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的、対話的で深い学び」の推進 (各学校の実態に応じた個別支援の充実) ----- 指標 ○ 一人ひとりの学力を把握し、個に応じた指導を行う。 ○ 漢字検定の合格率を 70.1%以上にする。(令和 6 年度 70%) ○ 令和 7 年度の児童アンケートにおいて、「家庭学習に取り組んでいる」と肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ○ 令和 7 年度の児童アンケートにおいて、「今の学年になって、自分の中でがんばったことがある」と肯定的に回答する児童の割合を 93.1%以上にする。(令和 6 年度 93%) | |
| 取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 英語教育の強化 ----- 指標 ○ 全学年で週 2 回 15 分の英語モジュール学習に取り組む。 ○ 令和 7 年度の児童アンケートにおいて、「英語学習はたのしい」と肯定的に回答する児童の割合を 92.1%以上にする。(令和 6 年度 92%) | |
| 取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 体力・運動能力向上のための取組の推進 ----- | |

| | |
|---|--|
| <p>指標</p> <p>○ 令和 7 年度の児童アンケートにおいて、「運動することはたのしい」と肯定的に回答する児童の割合を 94.1%以上にする。(令和 6 年度 94%)</p> <p>○ なわとび等の持久力を高める取り組みに、学校全体で取り組む。</p> | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| | |
| 次年度への改善点 | |
| | |

(様式2)

大阪市立大田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(令和6年度 1月時点 23.6%) ○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を100%以上にする。(令和6年度100%) | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 ICTを活用した教育の推進 ----- 指標 ○ プログラミング教育の年間カリキュラムに基づき、プログラミング教育に全学年で取り組む。 ○ 令和7年度の児童アンケートにおいて「パソコンやタブレットを使った学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を96.1%以上にする。(令和6年度96%) | |
| 取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織作り】 働き方改革の推進 ----- 指標 教職員が心身ともに健康に働くことができる職場づくりに取り組む。 ○ 校務支援システムを活用し、教職員間の情報共有を行うことで、校務に費やすことのできる時間を創出する。 ○ 学期に1回産業医先生の指導のもと、安全衛生委員会を開催し、教職員の健康を管理する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| | |
| 次年度への改善点 | |
| | |